

介護サービスにおける安全管理について

【介護サービスにおける安全管理】

平成18年度介護報酬改定において、介護老人保健施設及び介護老人福祉施設については、「介護事故に対する安全管理体制の確保」が、人員等の基準において明記され、介護施設におけるサービスの質の向上の取り組みの充実が図られた。

（事故の発生、再発を防止する措置として、事故防止指針の整備、施設内での事故情報と改善策の情報共有、事故防止委員会と従事者研修の定期的実施を行うことが規定されている。）

【介護現場における取り組み(例)】

全国老人保健施設協会では、平成19年度より「介護老人保健施設リスクマネジャー」資格認定制度を創設。

現在、約1,200名の「介護老人保健施設リスクマネジャー」が現場で安全管理に携わっている。

◆介護老人保健施設リスクマネジャー

6日間(計33時間)の研修を受け、資格試験を受験。5年ごとに更新試験有り。

<参考>

◆医療安全管理者

40時間以上又は5日程度の研修を受けた、看護師、薬剤師その他の医療有資格者。現行では、資格試験、更新制度は無し。

介護老人保健施設リスクマネジャーを導入した施設では、以下の効果が見られている。

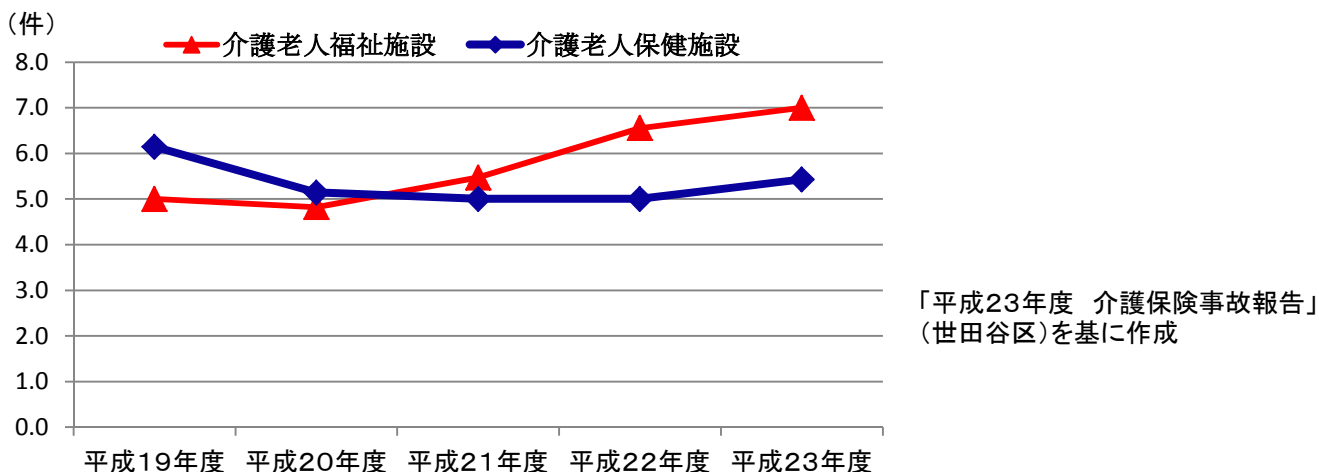
- インシデントレポートの報告数が増加
⇒ K施設では、導入後4年間で 44倍に増加
- リスクマネジメント委員会の開催回数が増加
⇒ P施設では、導入後3年間で年2回が年10回に増加し、現場に定着
- 転倒事案の発生回数が減少
⇒ A施設では、導入後4年間で4割減少

【介護現場における介護事故の現状】

しかしながら介護現場では、要介護度や医療必要度が高い利用者の増加、慢性的な人員不足による介護職員の負担の増大などの要因によって、介護事故の発生を押さえることは、大変困難。

サービス種別		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
介護老人福祉施設	事故報告件数	85	82	93	118	126
	施設数	17	17	17	18	18
	1施設当たり事故件数	5.0	4.8	5.5	6.6	7.0
介護老人保健施設	事故報告件数	43	36	35	35	38
	施設数	7	7	7	7	7
	1施設当たり事故件数	6.1	5.1	5.0	5.0	5.4

1施設当たり事故件数の推移



また、全国老人保健施設協会の認定する「介護老人保健施設リスクマネジャー」の資格試験の受験者数は、ここ2～3年減少傾向にある。

介護老人保健施設リスクマネジャー養成講座
 受講者数推移

